

授業科目	心理療法特論		担当教員	西村 喜文	
展開方法	講義・演習	単位数	2単位 必修	開設時期	前期
【授業目標】					
<p>心理実践の中心となる心理療法の理論と技法の習熟を目的とし、心理療法において重要な役割を担う「ことばとイメージ」についての理解を深める。とくに本論では、分析心理学的な視点と理論について解説した後に、イメージそのものが治療媒体となる芸術療法などの非言語的治療技法とその基礎理論について学習し理解を深める。また、イメージを用いた心理療法も、他のすべての心理療法と同様に基本的にはセラピストとクライアントの間で生起していくものであるが、この営みを保護するものとして心理療法の安心・安全な空間「器」がある。この「器」が面接室であり、面接時間であり料金など治療構造であり、もう一つ大切なものがセラピスト自身である。本授業では、文献を読むだけでなく、自分自身がワークを体験し心理臨床実践技法の習得を図るとともに自己のありようについて振り返る場にもしたいと考えている。</p>					
【授業方法】					
<p>①文献を用いての学習。 ②各技法の体験学習と討議</p>					
【授業計画】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ユング心理学概説①ユングとフロイトとの関係 3. ユング心理学概説②ユング心理学と仏教 4. ユング心理学概説③ユング心理学とは 5. 箱庭療法概説①箱庭療法の理論と実際 6. 箱庭療法概説②箱庭療法の展開 7. 箱庭療法実習①グループ制作 8. 箱庭療法実習②個人制作 9. コラージュ療法概説 10. コラージュ療法実習①グループ制作 11. コラージュ療法実習②個人制作 12. 絵画療法実習①スクイグルと心理療法 13. 絵画療法実習②風景構成法と心理アセスメント 14. まとめと討議①事例から学ぶ 15. まとめと討議②まとめ 					
【評価方法】					
レポート提出状況、実習態度、出席状況で評価する。					
【教科書・参考書】					
<p>教科書 ユング心理学入門 河合隼雄 培風館 参考書</p>					
【学生に期待すること】					
<p>授業外学修：次時間の学修内容を予告するので、該当するテキストの箇所を読み込んでおくこと。また、演習を通してイメージの世界を体験してもらいたいので、演習後は体験したことを整理し振り返りを行いレポートを提出すること。</p>					